

令和5年2月 北秋田市長記者会見

令和5年2月16日（木）午前11時30分
市役所本庁舎 大会議室

1. 令和5年北秋田市議会3月定例会について・・・資料1
2. 北秋田市民応援チケット事業 第2弾について
3. こども課の創設について
4. 伊勢堂岱遺跡XR化事業「首都圏プロモーション等」について・・・資料2
5. 新型コロナウイルスワクチンの間違い接種について

その他

- ・ 3月の行事予定

1. 令和5年北秋田市議会3月定例会について

本日、令和5年北秋田市議会3月定例会を3月1日に招集することといたしました。

今定例会には、「北秋田市個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について」をはじめとする条例案が13件、補正予算案が12件、当初予算案が19件、「辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について」をはじめとする単行議案が3件、報告1件の計48件の提案を行うこととしております。

概要につきましては、先ほど行われました議会運営委員会において総務部長から説明をさせておりますが、

令和5年度一般会計当初予算案につきましては、「第2次北秋田市総合計画後期基本計画」の3年目にあたることから、これまでの取組の進捗や方向性などの検証を行い、本市の最重要課題である人口減少と少子高齢化対策を基軸に、将来都市像である「住民が主役の“もり”のまち」の実現を目指し、保育料の無償化などの市独自の支援策を講じるほか、地域公共交通の充実に重点を置いた予算として編成しております。

予算総額につきましては、対前年度比3億7,281万6千円増の226億4,308万4千円としたところであります。

一般会計予算案の主な歳出をご説明いたしますと、

- 路線バスフリーパス助成金 として 374万5千円
- 大館能代空港利用促進事業補助金 として 4千350万円
- 北秋田市地域生活支援拠点整備費補助金 として
1億4千967万円
- 【新規】きたあきた赤ちゃん応援事業 として 892万5千円
- 私立保育園運営事業 として 6億3千116万4千円
- 森林環境譲与税事業 として 5千514万4千円

- 【新規】森吉山を中心とした賑わい拠点整備事業 として
1千487万9千円
- 統合分署建設事業 として
2億4千768万8千円
- 【新規】阿仁分署建設事業 として
3千196万4千円
- 【新規】消防ポンプ付救助工作車更新事業 として
1億3千724万3千円
- 市有スクールバス運行管理委託 として
6千504万8千円
- スクールバス更新 として
2千156万円
- 義務教育学校「阿仁学園」改修事業 として
6億4千42万3千円

を計上いたしております。

次に、令和4年度一般会計補正予算案につきましては、既定の予算の総額から16億1,929万3千円を減額して、総額を260億307万7千円といたしております。

2. 北秋田市民応援チケット事業 第2弾について

市では、食料品の値上がりや燃料費、電気料の値上げが続いていることから、市民生活の経済的負担を減らし、消費を刺激することで地域経済を活性化させるため、第2弾となります「市民応援チケット事業」を実施いたします。

本事業の対象者は、令和5年3月1日を基準日として、本市の住民基本台帳に登録されている方へ、一人当たり1万円の商品券を配布いたします。

配布方法につきましては、第1弾と同様に対象となる世帯主宛てに世帯人数分の枚数を送付いたしますが、金券であることから受取時に受領印をいただく必要がありますので、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

利用期間は、市民の皆さまが必要に応じて計画的に利用できるよう令和5年8月31日までと長めに設定しておりますので、皆さまの家計の一助となれば幸いです。

3. こども課の創設について

北秋田市の未来を担う子どもたちを重点的に応援していくため、令和5年度より市の組織体制を改編し、「こども課」を創設いたします。

「こども課」は、子ども行政に関する事業を専門的に行う部署として、「ハッピーアニバーサリー事業」をはじめとする市独自の支援を継続して実施するほか、課内に「子ども家庭総合支援拠点」を設置し、妊娠時から就学後まで切れ目のない伴走型の相談支援に取り組み、すべての子育て世帯が安全・安心に子どもを産み育てることができる環境づくりを推進してまいります。

また、総合的に業務を行える組織体制とすることで、国の「子ども家庭庁」発足に伴う業務にも効率的に対応できると考えております。

組織概要につきましては、既存事業の統合や連携するべき事業などを精査した上で1課2係とし、執務場所を現在の市役所本庁舎1階の福祉課がある場所を予定しております。

4. 伊勢堂岱遺跡XR化事業「首都圏プロモーション等」について

今年度、新たな取組として実施しております「世界文化遺産『伊勢堂岱遺跡のXR化』事業」では、環状列石の360°VR化や出土品の3D化などを行っておりますが、今週13日月曜日より首都圏プロモーションを展開しておりますので、お知らせいたします。

プロモーションでは、東京、新宿、渋谷など21のJR駅構内に設置してあるデジタルサイネージで15秒間の広告を19日日曜日まで放送するほか、首都圏博物館等での事業パンフレット配布やインスタグラム、ヤフー、グーグル内での広告配信を3月13日月曜日まで行ってまいります。

また、今月21日火曜日からは、伊勢堂岱縄文館のミュージアムショップにおいて、伊勢堂岱遺跡の象徴とも言えます板状土偶のペーパークラフト体験キットの販売も開始いたします。

先日、私も上京して現地を視察し、多くの人々が行き交う東京駅構内において、伊勢堂岱遺跡が大々的にPRされているところを確認してきました。

本事業の実施により、北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産であります伊勢堂岱遺跡の更なる知名度アップと魅力の発信につながり、県内外から多くの方々が本市を訪れてくれることを期待しております。

5. 新型コロナウイルスワクチンの間違い接種について

市内の高齢者施設で施設入所者及び職員を対象として実施いたしました新型コロナウイルスワクチン「オミクロン株対応2価ワクチン接種」において、間違い接種が判明いたしましたので、お詫びしご報告申し上げます。

間違い接種が発覚した経緯につきましては、当該施設で、令和4年12月12日月曜日 から令和5年1月27日 金曜日 に実施した「オミクロン株対応2価ワクチン接種」において、2月7日 火曜日に 市医療健康課が行った請求事務処理後の予診票整理作業で、本来は、接種量記載欄に0.5ml と記入されているべきところが0.3ml と記入されていたことから、施設側へ聞き取りを行ったものであります。

聞き取りした結果、この間に実施した148名の方について、一人あたりモデルナ社製0.5ml で実施すべきところを、ファイザー社製0.3ml と誤認し、モデルナ社製0.3ml で接種していたことが確認されたものであります。

間違い接種の対象となった施設入所者及び職員に対しては、施設側から既に経緯を説明し、お詫びを申し上げます。

なお、国の見解では、ワクチン接種量が規定量の半分以上であれば再接種は不要であることが示されているため、再接種は実施いたしません。

今後は、新型コロナウイルスワクチン接種を実施する市内医療機関及び施設に対して、ワクチン接種の取扱い等を改めて周知し再発防止に努めてまいります。